

頼もしく育つ娘

—世界に通じる力を育てる—『多言語広場 CELULAS メルマガ』第 16 号

みなさん、山梨の郷土料理『ほうとう』はご存知ですか？

かぼちゃや白菜、サトイモなど、季節の野菜と共に味噌で煮込んだ平たい麺です。

私と夫の出身が山梨で良く食べるので、うちは家族みんなが大好きで、実家に帰省した時には必ず買いだめしてきます。

連休に帰省していたので、昨日の夕飯はほうとう、今朝もふやけた残りのほうとうを食べてきました。

実は、作りたてもおいしいのですが、翌日のふやけたほうとうも私は大好きです。

ふやけた麺と聞くとびっくりする方も多いかと思いますが、翌日のほうとう、好きな方は多いと思います。

機会があれば、ぜひお試しください。

さて、セルラスでは機関誌『CELULAS(セルラス)』を発行しています。

このメールマガジンと併せてセルラスの活動内容を楽しく紹介しています。

<http://www.celulas.or.jp/kikannshi.html>

◇◇ 活動体験談 ～ 頼もしく育つ娘 ～ ◇◇

先日、セルラスの秋のセミナーが無事に終了しました。

沢山の方にお越しいただき、現在は各ピアザで、実際にセルラスの活動を体験して頂ける、オープンセルラスを実施しています。

そして、一緒にセルラスの環境作りに参加していただける

新しい仲間も増えました！

セルラスの活動の良いところのひとつは、親子でいっしょに取り組めることです。

それによって親は自分の子どもの成長をしっかりと見つけ、それを肌で感じるすることができます。

今日は、そんなメンバーの体験談をお伝えしたいと思います。

それでは、—世界に通じるチカラを育てる—『多言語広場セルラスメルマガ』第 16 号の目次です。

【目次】

《1》 活動体験談 ～ 頼もしく育つ娘 ～

東京都杉並区 戸塚さん（家族構成：夫・小6娘）

《2》 セルラスインフォメーション

《1》 活動体験談 ～ 頼もしく育つ娘 ～

東京都杉並区在住 戸塚さん（家族構成：夫・小6娘）

【セルラスとの出会い】

私がセルラスを知ったのは、娘が学校からもらってきたチラシでした。

そのとき、娘は小学校3年生で、英語教育をどうしようか考えていました。

でも、私も英語には苦勞してきていて、さんざん色々な教材や、英会話教室に通った経験がありました

が、結局できるようにならなかったの、何をさせたらいいのか考えあぐねていました。

そこへ、セルラスのチラシの「コミュニケーション力」に目がとまり、

セミナーを聞いて、これだ！と思いました。
娘よりも、自分がやりたい、という気持ちになってしまい、
嫌がる娘をなだめながらピアザに通い始めたのです。

【娘の成長】

今、活動を始めて3年ちょっと過ぎて感じるのは娘の成長です。
3年前の娘は、引っ込み思案で、人前では何も言えなくて、
声をやっと出しても蚊の鳴くような声しか出せない大人しい子でした。
それが、今や、プレゼンテーションは嫌がらずにやり、
人前では率先して意見を言う子になりました。

先日、ワンデイ インターナショナル エクスチェンジ プログラムという、
留学生と一日一緒にお出かけするプログラムがあり、
モンゴルの留学生たちとペアになって、水族館へ遊びに行きました。
娘はモンゴルの留学生たちを飽きさせないようにと、留学生に一生懸命話しかけていました。
それを見て本当に頼もしいと思いました。

学校では先生から信頼を得ているようで、担任を初めて受け持ったという若い先生が
「心細くしている私に『先生もう慣れましたか？』と初めて声をかけてくれたのが娘さんでした」と
感激されたり、今の先生は「まわりをよくみてしっかり行動できるし、自分の考えをしっかりと持っています
ね」
とってくれました。
「自分の考えをしっかりと持っている」というのは嬉しかったです。

私は、英語が話せれば国際人と思っていたところがありましたが、
その前に自分の考えをちゃんと持ち、それを人に伝えようとする姿勢が大事で、
実際の社会ではそれが問われる、という話を耳にするたびに、
それはセルラスの活動で培われる力のひとつだなと思っています。

【セルラスで育つことば】

ことばに関しては、この前、面白いことがありました。
私が、キッチンで食事の支度をしながら、「これとこれがあって、どっちにする～？」
とリビングにいる娘に聞きました。
しばらく間があって、キッチンに入ってきた娘が、
「あのさ、“ウオナゲドシン”、って何だっけ？」と聞いてきました。
「あ、それって中国語のストーリーブックの『こどもたちの誕生会』の場面に出てきた
『ぼく、どっちでもいいよ』って言うセリフじゃない？」と私が答えると、
「あ～そっか。そういう気分になったから、この中国語が口から出てきたんだ！」と
言うので、「日本語でなく中国語が先に出てきたの?! すごいね!!」と私は驚き、二人で大笑いしました。
この時彼女が発した中国語は、きっと彼女の中で、母語のように気持ちとしっかり結びついた言葉として、
入っていたのだと感じた瞬間でした。

娘はセルラスでこのように多言語に親しんでいるおかげで、
言葉の壁というものがとても低いように感じています。
以前、私は娘にこんな質問をしたことがあります。
「もし自分が知らない言葉で話す外国人と話をしなければならなくなったらどうする？
逃げちゃう？」
すると娘はしばらく考えて、
「だいじょうぶ、なんとかなると思っているから」

と言ったのです。これもとても頼もしいなと思いました。

娘は一人っ子ということもあって、精神的にたくましい子に育ててほしいと思っています。親はいつまでもそばにいて守ってやれない分、今できることは、どんな場所でもどんな人とでもうまくやっていける、対人能力をつけてあげることが大切だと思っています。

だから今、そんな発言をする頼もしい娘を見ていると、セルラスをやっている本当に良かったなと思います。

《2》 セルラスインフォメーション

◆多言語広場フェスティバル 2015◆

今年もセルラスの大きなイベントのひとつ、「フェスティバル」の季節がやってきました！

関東と関西で、企画・運営から青少年を中心に準備しています。参加ご希望の方は、セルラス本部事務局にお申し込みの上ご参加ください。

*関東 12月6日(日)午後1:30~4:30 会場:恵比寿

*関西 12月13日(日)午後1:00~4:30 会場:尼崎

お申込み先:セルラス本部事務局 TEL03-5333-8202

このメールマガジンは、これまでセルラスが開催した『多文化教育セミナー』に参加されるなど、私たちの活動にご興味を寄せいただいた皆さんにお送りしています。

セルラスの多言語習得や異文化体験、楽しい交流の活動を、より多くの皆さんに知っていただくために発行しています。

日頃の私たちの活動やご家族で参加いただけるイベントやセミナーなどのお知らせを、月2回の予定でお届けします。